事業報告

第 30 回三遠南信サミット 2022 in 南信州

第 30 回記念サミット 新たな時代に向けて

～ 大変革時における地域のリデザイン ～

主催 ： 三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）

共催 ： 三遠南信地域経済開発協議会

後援 ： デジタル庁、経済産業省、国土交通省

タイムスケジュール

13:00	■開会
	■会長あいさつ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 会長 浜松市長 鈴木康友
	■開催地代表挨拶 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長 飯田市長 佐藤健 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長 飯田商工会議所会頭 原勉
	■来賓挨拶・ビデオメッセージ 経済産業省 関東経済産業局 地域経済部長 五十嵐悟 氏 国土交通省 中部地方整備局 局長 稲田雅裕 氏 オンライン デジタル庁 統括官 村上敬亮 氏 ビデオメッセージ 長野県知事 阿部守一 氏 ビデオメッセージ 愛知県知事 大村秀章 氏 ビデオメッセージ 静岡県知事 川勝平太 氏 ビデオメッセージ
13:40～	■講演 俳優・タレント 峰竜太 氏 演題「新たな時代に向けて～変わる魅力、変わらない魅力～」
	■分科会案内 三遠南信地域連携ビジョン推進会議事務局 事務局長 河野和世
15:00～15:20	～ 移動（各分科会会場へ） ～
15:20～	■分科会 （1）第 1 分科会（飯田人形劇場） DX 時代の交流・連携 ～ヒト・モノ・コトの行き交う社会の創出～ 〔ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ〕髙橋大輔 氏 公益社団法人東三河地域研究センター 常務理事・調査研究室長 （2）第 2 分科会（飯田文化会館 ホール） 三遠南信地域をつなぐ道 ～これまでを辿り、これからへ繋ぐ～ 〔ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ〕戸田敏行 氏 愛知大学地域政策学部教授・三遠南信地域連携研究センター長 （3）第 3 分科会（飯田文化会館 会館棟 2 階 会議室） どうする三遠南信 ～歴史資源のリブランディング～ 〔ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ〕髙柳俊男 氏 法政大学国際文化学部教授
17:20～17:40	～ 移動（報告会会場（飯田文化会館 ホール）へ） ～
17:40～	■分科会報告 各分科会コーディネーター
	■サミット宣言 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長 飯田市長 佐藤健
	■次回開催地代表者あいさつ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長 浜松商工会議所会頭 斉藤薫
18:10	■閉会
18:10～18:30	～ 移動（交流会会場（飯田文化会館前 市民広場へ） ～
18:30～19:45	■交流会

事業実績

本年度の三遠南信サミットは、平成 5 年度から数え 30 回目、かつ、3 年振りに全日程を会場参集により開催した。また、当日の全体会の様子をオンラインにて同時配信するとともに、令和 4 年 11 月下旬より、すべての様子をサミット特設ページにて配信する。

（第 30 回三遠南信サミット 2022 in 南信州 特設ページ https://www.sena-vision.jp/sena/summit/no30.html）

1. 事業名

第 30 回三遠南信サミット 2022 in 南信州

2. テーマ

第 30 回記念サミット 新たな時代に向けて ～ 大変革時における地域のリデザイン ～

3. 開催日

令和 4 年 10 月 24 日（月）

4. 開催会場

飯田文化会館 及び 飯田人形劇場（飯田市高羽町 5-5-1）

5. 主な内容

（1）全体会 13:00～15:00

① 挨拶・ビデオメッセージ

経済産業省 関東経済産業局 地域経済部 部長 五十嵐悟 氏

国土交通省 中部地方整備局 局長 稲田雅裕 氏

デジタル庁 統括官 村上敬亮 氏

長野県知事 阿部守一 氏

愛知県知事 大村秀章 氏

静岡県知事 川勝平太 氏

② 講演

演題 新たな時代に向けて ～ 変わる魅力、変わらない魅力～

講師 俳優・タレント 峰竜太 氏（下條村出身）

（2）分科会　15:20～17:20

① 第 1 分科会

テーマ　　DX 時代の交流・連携 ～ヒト・モノ・コトの行き交う社会の創出～

物理的距離を超え、人材交流や情報交換のより一層の活発化が予想されるDXについて、行政や企業といった枠組みを超えた交流や組織、新たな技術の活用による物流や地域医療の可能性等について意見や取組を共有し、ヒト・モノ・コトの行き交う社会の創出に向け今後の在り方や連携の可能性を探る。

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　公益社団法人東三河地域研究センター 常務理事・調査研究室長
髙橋大輔 氏

参加者　　蒲郡市、東栄町、豊根村、湖西市、高森町、阿智村、根羽村、泰阜村
豊橋商工会議所、豊川商工会議所、田原市商工会、高森町商工会
住民団体（三遠南信住民ネットワーク協議会）
※行政団体８名、経済団体４名、住民団体１名　計 13 名

会場　　飯田人形劇場

協議内容　第 1 分科会では、DX に関する取組として、豊橋市市民協創部安全生活課（課長 林英樹氏）から、豊橋市における「公用車を利用したリアルタイムでの車両プローブデータの収集」について、浜松市デジタル・スマートシティ推進事業本部デジタル・スマートシティ推進課（課長 瀧本陽一氏）から、浜松市の「浜松市デジタル・スマートシティ推進計画における取組」について、先進事例を紹介いただいた後、参加者から「地域の現状や課題」「デジタルを活用した具体的な取り組み」「DX 推進に向けた提案」について、意見交換や協議を行った。

＜確認事項＞
情報技術を持つ企業や人と地域ニーズのマッチング機能、各地域での実証実験の支援や広域連携のサポート、国や県への特区提案など、三遠南信地域 DX のプラットフォームの形成を目指すことを確認した。

② 第 2 分科会

テーマ　　三遠南信地域をつなぐ道 ～これまでを辿り、これからへ繋ぐ～

本地域内に整備が進められている三遠南信自動車道やリニア中央新幹線など、人や物の流れの変化や活発化が予想・期待されている。これまでも議論されてきた「道」を活用した今後の三遠南信地域の在り方や連携の可能性に

ついて、30 回の節目に改めて意見を交わす。

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　愛知大学地域政策学部教授・三遠南信地域連携研究センター長
戸田敏行 氏

参加者　豊川市、飯田市、飯島町、売木村、喬木村、長野県建設部
浜松商工会議所、飯田商工会議所、下條村商工会
豊橋市議会、浜松市議会、飯田市議会
住民団体（三遠南信住民ネットワーク協議会）
※行政団体 6 名、経済団体 3 名、議会 3 名、住民団体 2 名　計 14 名

会場　飯田文化会館 ホール

協議内容　第 2 分科会では、国土交通省中部地方整備局飯田国道事務所（所長 大口鉄雄氏）から、三遠南信自動車道の整備状況・効果について、飯田市長（佐藤健氏）から、リニア中央新幹線長野県駅が建設される飯田市における取組について、それぞれ報告をいただきながら、「三遠南信地域を縦軸として結ぶ道への期待」「リニア中央新幹線開業による新たな連携の可能性」について、参加者による意見交換や協議を行った。

＜確認事項＞
三遠南信自動車道については、部分開通に伴う経済的な効果の確認や浜松豊橋湖西道路の開通も含めた全線開通への期待など、リニア中央新幹線については、開業に向けた期待や東海道新幹線への影響など、改めて三遠南信自動車道やリニア中央新幹線等の高速交通網の早期開通・実現に向けた活動や連携の必要性を確認した。

③ 第 3 分科会

テーマ　どうする三遠南信 ～歴史資源のリブランディング～

2023 年に放送予定の NHK の大河ドラマ「どうする家康」では三遠南信地域が舞台となることが想定される。そこで、三遠南信地域の歴史や連携の歩みなどを振り返りつつ、地域の歴史資源を活用した観光やプロモーションなど、歴史資源の価値化やファン獲得に繋がる地域ブランディングの取り組みを共有し、今後の在り方や連携の可能性を探る。

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　法政大学国際文化学部教授
髙柳俊男 氏

参加者　　豊橋市、新城市、浜松市、阿南町、平谷村、下條村、天龍村、大鹿村
駒ヶ根商工会議所
住民団体（三遠南信住民ネットワーク協議会）
※行政団体 8 名、経済団体 1 名、住民団体 2 名　計 11 名

会場　　飯田文化会館 会議室

協議内容　第 3 分科会では、はじめにコーディネーターの髙栁俊男氏から、長野県の飯田市や下伊那地域を中心に、三遠南信地域の歴史的な繋がりや歴史資源に関する紹介をいただいた後、参加者から「歴史資源を活用した取組（家康以外）」「家康に関する歴史資源を活用した取組」「伝統芸能に関する取組」について、意見交換や協議を行った。

＜確認事項＞
歴史資源の活用や継承については、39 市町村の範囲だけでなくそれをも越えた広域的な連携の必要性、三遠南信地域内に存在する数多くの伝統芸能（歌舞伎・お祭り・人形浄瑠璃など）の PR や活用に向けた具体的なアクションなど、組織や地域を越えた今後の横展開のあり方を確認した。

（3）報告会　17:40～18:10

① 分科会報告
※第 1～3 分科会のコーディネーターからそれぞれ報告

② サミット宣言
※三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長の佐藤健飯田市長が代表して読み上げ

6. 当日の来場者数及び特設サイトアクセス数

・来場者数　約 600 名
・特設サイトアクセス数　263 回

7. その他（関連事業：三遠南信住民ネットワーク協議会による住民セッション）

開催日時　令和 4 年 10 月 24 日（月）10:00～12:00
開催会場　飯田文化会館 会議室

第 30 回三遠南信サミット 2022 in 南信州　サミット宣言

三遠南信サミットは、平成 6 年 2 月 10 日に第 1 回を開催して以来、30 回目を迎えました。この間、平成 7 年の地方分権推進法の成立や平成 11 年からの市町村合併の推進、道州制の議論など、地方自治や広域行政をめぐる大きな変化があり、また最近では、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により社会が大きく変容いたしました。こうしたなかで我々は、三遠南信地域の発展に向け、その時代に応じたテーマについて議論を行い、活動を積み重ねてまいりました。

今回の三遠南信サミットは、「第 30 回記念サミット 新たな時代に向けて ～大変革時における地域のリデザイン～」をテーマに、3 年振りに構成員等関係者が会場に参集しての開催となりました。第 30 回を記念し、全体会では、南信州の下條村ご出身で、俳優・タレントとしてご活躍されている峰竜太さんにご講演をいただいたほか、「DX」「道」「歴史」をテーマとした分科会では、これまでを振り返りつつ、各地域・各団体における様々な取組を共有するとともに未来に向けた新たな連携について議論いたしました。

本日の議論を踏まえ、我々三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、以下の項目に重点を置き、取組を推進してまいります。

1. 高速交通網の早期開通・実現に向けた活動の推進

中部圏の中核的都市圏となる地域基盤の形成に向け、第 1 回サミットからの悲願である三遠南信自動車道の早期全線開通をはじめ、浜松湖西豊橋道路の早期実現など、引き続き地域一丸となった提言活動を進めます。また、スーパー・メガリージョンの形成を見据えて、その基軸となるリニア中央新幹線の整備効果を活かすべく、一層の連携強化を図ります。

2. 三遠南信地域一体での DX の推進

革新を取り込む産業創造圏の形成に向け、地域として DX を推進することにより、新たな技術を活かした物流や人的交流をさらに活発化させ、行政、産業、地域などの枠を超えた「ヒト・モノ・コト」の行き交う社会の実現を目指し、三遠南信地域の一体的な発展、地域社会におけるイノベーションの創出、地域住民の生活の質の向上を図ります。

3. 歴史資源のリブランディングの推進

流域文化創造圏の形成に向け、令和 5 年の NHK の大河ドラマ「どうする家康」の放送開始に合わせ、域内に存在する様々な歴史資源のリブランディングを進めながら、地域連携による観光誘客やプロモーション活動に一層力を入れ、三遠南信地域のファン獲得を目指します。

県境を越えた広域連携による絆を一層強化・深化させ、官民連携の強みを活かした多様な主体による新たな地域連携のプラットフォームの形成を目指すなど、2030 年を目標年次とする第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの実現に向け、この場を共有する全ての主体が取組を進めることを確認し、第 30 回三遠南信サミット 2022 in 南信州のサミット宣言といたします。

令和 4 年 10 月 24 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議
第 30 回三遠南信サミット 2022 in 南信州

歳入歳出決算

○歳入内訳　　（単位：円）

項目	令和４年度 予算額	令和４年度 決算額	説明
1 事業費	3,500,000	2,897,853	
2 参加負担金	780,000	309,600	交流会負担金（4,000 円×72 人） （2,400 円×9 人）
計	4,280,000	3,207,453	

○歳出内訳　　（単位：円）

項目	令和４年度 予算額	令和４年度 決算額	説明
1 運営業務委託費	1,600,000	1,682,450	サミット運営、録画・配信 ほか
2 会場関係費	400,000	79,200	
3 交流会設営費	100,000	220,990	交流会会場設営費
4 交流会飲食費	780,000	312,208	うち、309,600 円は参加負担金を充当
5 住民セッション関係費	200,000	249,998	企画・運営業務委託料
6 会議費	10,000	0	
7 事務費	390,000	410,737	旅費、燃料費、郵送費、消耗品費、振込手数料 ほか
8 謝金	800,000	251,870	全体会・分科会登壇者謝金
計	4,280,000	3,207,453	

PR 媒体 及び 当日の様子

◆プログラム

◆サミット特設サイト

◆全体会（会長挨拶）

◆全体会（講演）

◆第１分科会

◆第２分科会

◆第３分科会

◆サミット宣言

＜南信州地域＞

◆南信州新聞　2022 年 10 月 25 日（火）

DXと交通網で発展を

飯田で三遠南信サミット

三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は24日、第30回三遠南信サミット2022in南信州を飯田市高羽町の飯田文化会館と飯田人形劇場で開いた。三遠南信地域の行政や商工団体の代表者、議員ら400人以上が集まり、「第30回記念サミット　新たな時代に向けて―大変革時における地域のリデザイン」をテーマに意見交換した（2面に関連記事）。

全体会でSENA会長の鈴木康友浜松市長は「DXが進展する中、新しい時代の取り組みを変化させることが今回のテーマ。三遠南信地域がデジタル田園都市になればさらに発展できる。皆さんと智恵を出し合い、実装を目指したい」とあいさつした。

開催地を代表して副会長の佐藤健飯田市長は、「青崩峠トンネルの掘進長が9割を超えた三遠南信道建設工事の進ちょくに触れ「三河港が近くなる浜松湖西豊橋道路、DXの進展と合わせ、皆さんと地域の発展に力を合わせたい」と力を込めた。

同じく副会長の原勉飯田商工会議所会頭も「三遠南信道は観光と産業の活性化に加え、地域力の底上げにも結び付くもので、期待はますます高まっている。今後を見据えたサミットとしたい」と抱負を語った。

30回の節目を記念して講演した下條村出身のタレント峰竜太さんは、三遠南信道の工事について「想像以上に時間がかかっている」と率直な思いを語り、天竜川が由来となった芸名を切り口に三遠南信に対する思いを熱っぽく語った。

分科会は「DX時代の交流・連携―ヒト・モノ・コトが行き交う社会の創出」「三遠南信をつなぐ道―これまでをたどり、これからへ繋ぐ」「どうする三遠南信―歴史資源のリブランディング」をテーマに開いた。

つながる三遠南信

◆信濃毎日新聞　2022 年 10 月 25 日（火）

交通網早期開通とデジタル化推進を

飯田で三遠南信サミット

三遠南信地域（飯田下伊那など県南部、愛知県東部、静岡県西部）の連携を考える第30回三遠南信サミットが24日、飯田市で開かれた。同地域の市町村議員ら約600人が出席。佐藤健飯田市長が、高速交通網の早期開通やDX（デジタル技術を生かした変革）の推進に向け取り組むことなどを確認する「サミット宣言」をした。

飯田文化会館と飯田人形劇場を会場に、DX、高速交通網、歴史の三つのテーマで分科会を開いた。飯田市と浜松市をつなぐ三遠南信道の整備効果を話し合う分科会では、国土交通省飯田国道事務所（飯田市）の大口鉄雄所長が説明。開通すれば両市役所間の所要時間が約50分短縮され約2時間半となり、長野県産の農産物などの流通にも効果が期待できるとした。

飯田市議会の井坪隆議長は「天龍峡大橋に観光客が訪れ、一部開通でも整備効果が表れている」とした。一方、住民の中には三遠南信といっても分からない人もおり、浸透させる必要があるとの意見が出た。リニア中央新幹線の整備については、開通時期が見通せず域外からの投資を阻むとして、開通見通しの提示を求める声もあった。

DXの分科会では、広域連携による人材育成や、地域間で情報交換できる場の必要性などが課題に上がった。

三遠南信道の整備効果などについて意見交換した分科会

◆中日新聞　2022年10月25日（火）

飯田で三遠南信サミット

3年ぶり首長ら集う

県境を越えた広域連携する三遠南信地域（愛知県東三河、静岡県遠州、長野県南信州）の一体的な発展を議論する「第三十回三遠南信サミット」が二十四日、飯田市高羽町の飯田文化会館を中心に開かれた。会場に関係者が集まるのは三年ぶり。新たな時代に向け、首長らが今後の連携を探った。

分科会で意見を交わす首長ら＝飯田市高羽町で

全体会では、三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長の鈴木康友浜松市長が「技術が発達し、地方でも都市の利便性を享受できるようになった。新たな知恵を出して発展していきたい」とあいさつ。佐藤健飯田市長は、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線にも触れ、期待感を示した。

続いて分科会があり、デジタルトランスフォーメーション（DX）時代の交流・連携、三遠南信地域をつなぐ道、歴史資源について意見交換した。

最後は、分科会での議論をまとめ、高速交通網の早期開通・実現に向けた活動の推進、地域一体でのDXの推進、歴史資源のリブランディングの推進―の三項目を重点に取り組むことをサミット宣言として発表。次回の開催地となる浜松市にバトンを渡した。

三県の知事もビデオメッセージを寄せ、リニアや三遠南信道の整備促進に意欲。水問題からリニア静岡工区の着工を認めていない静岡県の川勝平太知事は、整備効果や利便性を訴える一方、「水資源や自然環境の保全とリニアの両立を図るために尽力している」と理解を求めた。

（石川[illegible]）

＜遠州地域＞

◆静岡新聞　2022 年 10 月 22 日（土）

三遠南信道 完成いつ…

24日、第30回サミット

人口減少加速、焦る住民

◆静岡新聞　2022 年 10 月 25 日（火）

三遠南信道全通

地域一丸で推進

第30回サミット宣言

サミット宣言を発表した鈴木康友浜松市長（右から2人目）ら出席者＝24日午後、長野県飯田市の飯田文化会館

◆静岡新聞　2022 年 10 月 25 日（火）

三遠南信サミット

観光やDX 意見交換

首長ら参加し分科会

歴史資源を生かした観光振興の可能性などについて意見を交わした分科会＝24日午後、長野県飯田市の飯田文化会館

長野県飯田市で24日に開かれた第30回三遠南信サミットは全体会に続く3分科会で、歴史資源を活用した観光振興や高速交通網の整備、デジタルトランスフォーメーション（DX）推進について首長や経済団体代表、有識者らが議論を深めた。

[illegible]

（浜松総局・瀧家広）

三遠南信道やリニア「早く実現を」

峰竜太さん講演

三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の早期全線実現に向けてエールを送った峰竜太さん＝24日午後、長野県飯田市の飯田文化会館

[illegible]

（浜松総局・白本俊樹）

◆中日新聞　2022 年 10 月 25 日（火）

DX時代 連携探る

長野・飯田で三遠南信サミット

遠州、愛知県東三河、長野県南信州地域の課題について意見を交わす「三遠南信サミット」が二十四日、長野県飯田市であった。会場に関係者が集まるのは三年ぶり。新たな時代に向け、首長らが今後の連携を探った。

全体会では、同地域連携ビジョン推進会議会長の鈴木康友浜松市長が「技術が発達し、地方でも都市の利便性を実装できるようになった。新たな知恵を出して発展していきたい」とあいさつ。佐藤健飯田市長は、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線にも触れ、期待感を示した。

分科会では、デジタルトランスフォーメーション（DX）時代の交流・連携、三遠南信地域をつなぐ道、歴史資源について意見交換した。高速交通網の早期開通・実現に向けた活動の推進、地域一体でのDXの推進、歴史資源のリブランディングの推進—の三項目を重点に取り組むことを確認し、サミット宣言として発表。次回の開催地となる浜松市にバトンを渡した。

三県の知事もビデオメッセージを寄せ、リニアや三遠南信道の整備促進に言及。水問題からリニア静岡工区の着工を認めていない川勝平太知事は整備効果や利便性を認める一方、「水源や自然環境の保全とリニアの両立を図るために尽力している」と理解を求めた。（石川才子）

取り込まれると人体に影響を及ぼす可能性がある。起点部周辺には逢初川が流れており、県は水質調査も合わせて行った結果、流出は確認されなかった。

県は土地の前所有者の「新幹線ビルディング」（神奈川県小田原市）に撤去するよう措置命令を出したが、従わなかったため、十一日から行政代執行に着手し、土砂の撤去作業をしている。（向川原悠吾）

◆静岡新聞　2022 年 11 月 10 日（木）

社説 <2022.11.10>

三遠南信連携

事業検証し優先順位を

＜東三河地域＞

◆東日新聞　2022 年 10 月 26 日（水）

飯田市で「三遠南信サミット」

DX推進や歴史資源活用、交通網整備など協議